

多賀工業会 東京支部会報

2016年7月 第19号



< お練り祭り >

挨拶

支部長 小林 一（昭38学機）



多賀工業会東京支部の皆様には、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。日頃より支部の運営にご理解ご支援をいただきます事、心からお礼申し上げます。

私は昨年7月の支部総会にて支部長の大役を仰せつかった者です。そこで、私の略歴を少し説明させていただきます。昭和15年（1940）11月に茨城県笠間市の田舎で生まれました。水戸第一高等学校を昭和34年に卒業のあと茨城大学工学部機械工学科を昭和38年3月に卒業しました。日本の高度成長期、就職先はかなり自由に選択できる時代でした。硝子会社に入社し、自動車用安全ガラスの製造工場に配属になりました。この頃から日本国内でのモータリゼーションが急拡大、その後は北米・欧州・東南アジアへの輸出の拡大等、自動車生産の増加への対応という働くものにとってはラッキーな会社生活を送ってきました。

多賀工業会東京支部とのめぐり合いは、65歳で完全に仕事を離れたときに同期の仲間に誘われ、活動に参加させていただきました。支部長に就任して改めて痛感していることは、会員の高齢化と若い会員の増加が少ない事です。この結果、例えば年会費の納入者数ですが、平成25年度は約190人でしたが平成27年度は約160人と激減しております。

本年度の支部活動に関して、2つの項目について話をさせていただきます。

1つ目は、9月の同窓の集いの時に講演を馬場充工学部長に受けていただきました。国立大学も法人化され、民間企業並みに実績が求められるようになりました。工学部の現状と将来について講演していただき、我々卒業生としても何かお手伝いできる事はないか、また支部の活性化につながるようなヒントはないのか等、皆様と考える機会にしたいと思っております。どうか足を運んでいただけますよう、願っております。

2つ目は、多賀工業会フォーラムIN東京を企画して実施してみることになりました。ねらいとしては支部活動の活性化を図り、若い会員の増加につなげる事です。年に2回・土曜日の午後の3時間位、当面は幹事会メンバーの2名が講師となり、仕事や技術の体験等を語っていただき、それをベースに参加者全員で質疑応答や対話により、会員の交流を深める事にしたい。

多賀工業会は本年、創立75周年を迎えました。7月2日（土）母校にて、記念式典も開催されました（詳細は本部の多賀工業会会報に記載されております）。日立的街はもちろんの事、工学部も大きく変わりました。同期や同窓・同好会の仲間の皆様で誘い合って、一度出かけてみてはいかがでしょうか。

最後に、支部会員の皆様の益々の活躍と、ご健勝を祈念申し上げます。

2016年 第19号 目次

挨拶	小林 一	1
目次	第19号会報目次	2
報告	平成28年度(第36回)同窓の集い開催のご案内	3
	平成27年度(第35回)同窓の集い報告 青野 潔・佐藤 将彦	4
	平成27年度(第35回)同窓の集い写真集	写真部 5
	平成27年度(第35回)講演会概要・出席者名簿	6~7
	平成27年度東京支部会計報告	森田 徹郎 8
	平成28年度東京支部会計予算(案)	森田 徹郎 8
随筆	シルクロードの旅	鈴木日出男 9
	777開発に参加して	田川 孝二 10
	並木下宿の同窓会	加藤 邦治 11
	自動車ラリー・その素晴らしき仲間達と40年	丸島 國義 12
	富士登山の勧め	高木 浩則 13
	与論島の魅力とヨロンマラソンについて	東 和樹 14
特別寄稿	支部長を終えて	上月 秀俊 15
	トリスを飲んでハワイに行こう	三好 成實 16
支部めぐり	千葉県支部の紹介	綿引 貞男 17
同好会活動	囲碁部	田中栄太郎 18
	ゴルフ部	佐藤 将彦 19
	山遊会	小森 廣樹 20
	写真部	三好 成實 21
	平成27年度同窓の集い作品展出展写真から抜粋	写真部 22
	平成27年度同窓の集い作品展出展リスト	写真部 23
	女子会	太田 悦子 24
	テニス部	森永 隆宏 25
組織	東京支部組織体制と担当役務	26
お知らせ	平成27年度会費納入者・寄付者名簿	27~28
会則	東京支部会則	29
連絡	ホームページ編集室より・編集後記	ホームページ・会報編集室 30
協賛広告	ジュン・ホーム、大協印刷	裏表紙

表紙の写真：〈お練り祭り〉 撮影地：長野県飯田市（2016年3月27日）

飯田お練り祭りは、外県・大宮諏訪神社の式年大祭として、七年に一度行われます。約350年の歴史を持つお練り祭りは、古式ゆかしい行列が連なる神輿渡御（みこしとぎょ）の神事に始まり、大名行列や獅子舞や伝統芸能が、飯田の中心街地を賑やかに練り歩きます。中でも本東野大獅子は伊奈谷を代表する屋台獅子で巨大な頭とダイナミックな演技は「日本一」の呼び声です。全長25mのほろ屋台が突進する「まだかの舞」は見応えがあります。

小林 渡（昭38学電）

平成 28 年度(第 36 回)多賀工業会東京支部同窓の集いご案内

1. 日 時 平成 28 年 9 月 10 日 (土) 午前 10 時から

2. 場 所 アルカディア市ヶ谷 (右図参照)
東京都千代田区九段北 4-2-25
電話 03-3261-9921 (代表)

交 通 : JR 市ヶ谷駅 (中央線) 下車徒歩 3 分
地下鉄市ヶ谷駅 (有楽町線、南北線、
都営新宿線の A 1 出口)

3. 会 費 8,000 円 (当日受付にて申し受けます)
女子会員は 4,000 円とします。

4. 総 会 午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分

5. 講演会 午前 11 時 10 分～午後 00 時 00 分

演題「工学部の現状と将来」

講師 馬場 充 多賀工業会名誉会長・
茨城大学工学部長(略歴等は下段)



6. 懇親会 午後 00 時 10 分～午後 02 時 30 分まで

7. 写真展 総会の会場内に展示します。[一般会員の方からの出展を歓迎します。陳列の都合上事前に写真部連絡窓口 (21 頁参照) の三好成實まで電話 (FAX 同じ) で連絡下さい。]

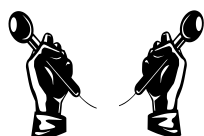
8. お願い 出欠のご返事は 7 月 31 日 (日) までに同封のハガキにてお願いします。

出席連絡後予定変更で欠席となる場合は、9 月 1 日 (木) までに連絡をお願いします。
それ以降の欠席には会費のキャンセル料を頂くことになります。

また、出欠にかかわらず、お手数でも同封の振込用紙にて、年会費 2,000 円をお振込みくださるようお願い申し上げます。

9. お問い合わせ先

飯塚 英一 (昭 46 学電) TEL : 045-755-1588 E-mail : elias_ii.ggr@f5.dion.ne.jp



講演会

講 師:馬場 充 多賀工業会名誉会長・茨城大学工学部長

講演概要:工学部の現状と将来について

講師紹介:昭和 54 年京都大学工学研究科精密工学専攻修士修了、
同年日本鋼管(株)入社

昭和 57 年岡山大学工学部応用機械工学科助手

平成 02 年岡山大学工学部情報工学科助教授

平成 16 年茨城大学工学部システム工学科教授～現在に至る



平成 27 年度 多賀工業会 東京支部「同窓の集い」

青野 潔 (昭 41 学化)
佐藤 将彦 (昭 43 学子)



(懐かしき茨大正門)

東京支部「同窓の集い」は、参加し易い時期・時間帯等を検討してきて、開催日時・場所を変更し、初夏の 7 月 11 日 (土) 午前 10 時から午後 2 時 30 分、アルカディア市ヶ谷で開催しました。本部長の塩幡宏規 (昭 47 院精) 氏をはじめ、千葉県、埼玉、水戸勝田、静岡、栃木、仙台、中部、日立総合の 8 支部代表の方々をご来賓にお迎えし、出席者総数 81 名にて行われました。ご来賓の方々には遠路はるばるご出席を賜り、誠に有難うございました。バックヤードではハプニングがありましたが、時期・場所を移してかつ、新しい時間帯での開催にも拘らず、ご参加の会員様のご協力・ご支援を頂きまして盛会裏に終えることができました。感謝申し上げます。

なお、出席者名一覧は、7 頁に掲載。

その他のスナップ写真は、5 頁に掲載。

以下に、概要を報告します。

第 1 部 第 35 回総会 (10 時～11 時 於 7 階琴平)

青野年度幹事の司会で、上月秀俊 (昭 36 学機) 支部長の合図で亡くなられた方々への黙祷後、開会の辞で始められました。上月支部長は、国内外の社会・経済状況、茨城大学同窓会連合会、工学部及び来年創立 75 周年を迎える多賀工業会への協力、更に当支部の近況として支部幹事の若返り、活動内容の見直し、改革について述べられました。次に、ご来賓の方々のご紹介を行い、代表して本部の塩幡会長からご挨拶を頂きました。

議事 (役員名は当時のもので、卒年/学科省略)

1. 支部活動報告・・・小林 (一) 幹事長
2. 会計報告・予算・・・森田会計幹事
3. 会計監査報告・・・高木監事
4. 支部会則の改訂・・・小林 (一) 幹事長
5. 支部役員交代・・・上月支部長

について各担当から説明され、質疑応答を経て、原案通り承認されました。

支部役員交代では、2 期に亘る支部長の重責にありました上月氏から、小林 (一) 氏へ支部長役がバトンタッチされました。



上月前支部長



小林新支部長

第 2 部 講演会 (11 時 10 分～12 時 於 7 階琴平)

太田悦子 (昭 60 学電) 幹事のご紹介にて、当支部会員の山本夏江 (平 10 学機) 氏による演題「3.11 福島を通して～復興に一役～」の講演。ボランティア活動による震災復興のお話。詳しくは 6 頁に掲載。



山本講師

第 3 部 懇親会 (12 時 10 分～14 時 30 分)

於 4 階鳳凰)

佐藤年度幹事の司会で、4 階宴会場・鳳凰に移動して行いました。三本木顧問 (昭 30 学金) の乾杯の音頭で開始し、懇談の開始に先立って、初参加者の 8 名の方々の紹介を行いました。その後は、卒業年度の近い方々、或は今後の支部会交流等が期待される方々の円卓毎に、先輩、後輩及び 5 名参加の女子会の皆様と垣根を取り払い、大いに飲み交わし、語り合いの場を持つことが出来ました。

遠方からご出席の仙台、中部、静岡、日立総合各支部に一言、ご挨拶を頂きました。余興として 栃本二郎 (昭 19 専原) 氏の手旗信号と橘 弘 (昭 38 学電) 氏のクラリネット演奏を頂きました。校歌・寮歌斉唱では、大泉 (昭 40 学精) 新幹事長の進行で、校歌・寮歌をクラリネット伴奏に合わせて歌い、楽しみました。最後に、小林渡 (昭 38 学電) 副支部長が中締めを行いました。



校歌・寮歌斉唱



女子会の皆さん

◇写真展

恒例の写真部による写真展が総会・講演会会場内で行われました。出展写真は 22～23 頁に掲載。

平成 27 年度 (第 35 回) 同窓の集い写真集

総会 上月東京支部長の挨拶



懇親会 3



総会 本部塩幡会長の挨拶



懇親会 4 (初参加の皆さん)



懇親会 1



校歌・寮歌斉唱



懇親会 2



朽本大先輩の手旗信号



平成 27 年度「同窓の集い」講演会概要

3.11 福島を通して ～復興に一役～

講師 山本 夏江氏 (平 10 学機)



- ・平成 10 年 茨城大学機械工学科卒業
- ・平成 12 年 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科修了
- ・平成 12 年 米海軍横須賀基地勤務～現在に至る

講師は、第 18 号会報にも寄稿されました。講演会後の質疑応答のみならず懇親会中も多くの方から囲まれていたほどで、同窓生として多いに刺激を受けた講演会でした。この機会に相馬を訪れた同窓生もおられたとのこと。

なお、配布資料は、「相馬野馬追 (2015・7/25・26・27)」のパフレットでした。

講演概要

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災後、茨城大学の同期、福島在住の友人を訪ねることから始まった、南相馬 相馬野馬追を支援する活動についての紹介。

1. ボランティアとは何か？

ボランティアの定義や種類、概念の説明。

概念のなかには、活動がボランティアに参加する個人の自己実現の場として機能する事もあり、自己満足で終わりかねない問題としての指摘。例として、阪神大震災時乙武洋匡氏や淡路大震災の市議今村岳司氏の次のコメントが紹介された。

- ・一番迷惑で邪魔だったのは、自称ボランティアの人たち
- ・こちらが必要とする事はできず、逆に残り少ない食品や飲料水を消費していく
- ・被災地に必要なのはプロだけです など

又、山本氏は福島との交流にあたり、以下を心掛けたとのこと。

- ・「皆と一緒に何かをする」という発想で活動
- ・ボランティアは、成果を上げなくては無意味
- ・ボランティアは、できることに限りがある
- ・沢山の人がきても、活動を明確にして動かなければ邪魔

一方、個人ボランティアには、資金、仕事量、行政との関係など、の限界があること。

2. 2011 年 3 月 11 日から数週間の出来事

当時や現在のまだ復興が進まない現地での沢山の写真と共に様子が紹介された。



船が田んぼに横倒しに打ち上げられている

直後の訪問の装備や費用の具体的内容は以下。

- ・全額自己負担 主に交通費で 8 万円程度
- ・500ml のペットボトル、水 2 本
- ・1 週間分の食料・最低限の着替え、洗面具、本
- ・アウトドアスタイル (靴は安全靴を勧めます)
- ・非常時に必要な物 1 式 (懐中電灯、工具、マスク、地図等)

言わなくて感謝された言葉は、「がんばれ！」。更に、震災当時の職場での様子も語られた。

3. 横須賀みこしパレードに、相馬野馬追を招待

震災の影響で 1000 年近い文化継承が困難になっている一方で、自衛隊や米軍にお礼として騎馬武者を見せたいという話が発端となり、さらに全員帰宅できない標葉郷騎馬会に活気を！との山本氏の想いから活動。

資金調達など動かない行政 (市) に対し、スポンサーとなったボーイング社、米軍、海自などの協力状況のなか最後まで一人でやり切ってしまった山本氏の孤軍奮闘ぶりが紹介された。当日は 5 万 5 千人の観客のなか、米軍、海自、騎馬会の第二の「トモダチ作戦」として成功した (反省点は、資金不足、福島での宣伝不足、組織化してあった方が良かったなど)。



パレードの動画も上映された (写真での例)

4. 日本企業の社会貢献への感じたこと

- ・海外の企業は盛んに貢献してくるが、日本企業は非協力的
- ・企業と関わる大義、関連企業同士の参加が必要条件
- ・社会貢献意識が低い

などの問題点に、今回は直面しました。今後、同窓会で出来る支援として、以下の提案。

- ・大学と一緒に高校生に対してアピール
- ・同窓会が現役学生に積極的に支援するような活動
- ・同窓会にスポンサーをつける
- ・日立や各支部で利用できるホテルやレストランの割引制度を設ける ネットの方が安い？
- ・日立商工会議所と協力

5. 講師を終えての感想

社会経験豊かな皆さんが、若輩者の私の話を熱心に聞いておられ大変嬉しかったです。(次葉へ)

工学部ということから、工学の基礎知識、また興味を示す方向性があるので、非常に話しやすかった。一般の方に話す場合、碎いて話したり、思想的なバラつきなどあって言えないこともあるが、純粋に工学的な概念を理解している方へは、非常に話しやすく、質問も明確で答えやすいと思いました。

議論できる場があればいつかお知恵拝借でぜひ議論をしたいと思います。そして、その議論した知恵を退職しても尚、元気な卒業生の方々が何かに活かして頂ければと願うばかりです。

最後に

本報告は、講師ご紹介の太田悦子（昭60学電）氏のお骨折りを頂きました。御礼申し上げます。

平成27年度 多賀工業会東京支部「同窓の集い」出席者名簿

<来賓> 10名 (敬称略)

塩幡 宏規	多賀工業会	本部会長	(昭47院精)	植竹 一郎	栃木支部会	支部長	(昭41学電)
千代 和彦	千葉県支部	支部長代行	(昭40学精)	中畑 直人	仙台支部	幹事長	(昭52学電)
上田 正雄	埼玉支部	支部長	(昭37学電)	菅谷 伸夫	中部支部	幹事長	(昭45学機)
岡野 博親	水戸勝田支部	前支部長	(昭33学電)	小沼 淳志	日立総合支部	副支部長	(昭41学化)
寒風澤 毅	静岡支部	支部長	(昭41学機)	山本 夏江	講演会	講師	(平10学機)

<会員> 71名 (敬称略)

朽本 二郎	(昭19専原)	小林 渡	(昭38学電)	吉田 通廣	(昭45学電)
柳田 裕美	(昭19専精)	橘 弘	(昭38学電)	藤枝 伸一	(昭45学子)
海老原 和	(昭24専電)	寺内 賢一	(昭38学電)	伊藤 茂	(昭45学精)
玉川 信二	(昭28学電)	橋本 政巳	(昭38学電)	黒澤 郁雄	(昭45学精)
三本木 武	(昭30学金)	綿引 貞男	(昭38学電)	飯塚 英一	(昭46学電)
鈴木日出男	(昭30学原)	海老原雄二	(昭38学金)	五十嵐喜良	(昭47学子)
山崎慎一郎	(昭31学原)	大塚 進	(昭38学化)	金子 芳久	(昭48学機)
矢野 睦男	(昭32学原)	小田倉勝夫	(昭38学化)	寺田しげ子	(昭48学化)
上月 秀俊	(昭36学機)	小池 利彦	(昭38学化)	柳下 幸夫	(昭49学機)
真下 知行	(昭36学機)	白石 道彦	(昭38学化)	相川 哲男	(昭50院精)
森永 隆宏	(昭36学機)	高木 二郎	(昭38学化)	加藤 清	(昭50院精)
菊地 耕基	(昭37学機)	矢部 功一	(昭38学化)	小澤 喜宏	(昭53学子)
栗橋 貞夫	(昭37学機)	磯部 亮	(昭38学精)	加藤 邦治	(昭53学子)
阿部 徳治	(昭37学化)	矢嶋 國男	(昭38学精)	西部 俊憲	(昭53学情)
河上 弘一	(昭38学機)	三好 成實	(昭39学機)	丸島 國義	(昭55院電)
小林 一	(昭38学機)	原 俊彦	(昭39学電)	太田 悦子	(昭60学電)
駒場 方耀	(昭38学機)	田中栄太郎	(昭40学化)	鈴木 葉子	(昭62学化)
丹下 宏	(昭38学機)	大泉 雅靖	(昭40学精)	福田 光子	(昭62学情)
徳江 景英	(昭38学機)	青野 潔	(昭41学化)	二川 克美	(昭63院情)
中村 好秀	(昭38学機)	小森 廣樹	(昭42学機)	千田 洋樹	(平05学機)
長谷川幸夫	(昭38学機)	森田 徹郎	(昭42学電)	東 學	(平08院生)
大竹 充	(昭38学電)	佐藤 将彦	(昭43学子)	山本 夏江	(平10学機)
兼子 八郎	(昭38学電)	斉藤 央道	(昭43学精)	大江 正敏	(平19学社会)
後藤 紀夫	(昭38学電)	斎藤 昭	(昭44学化)		

平成27年度多賀工業会東京支部会計報告

収入の部

平成27年4月1日～平成27年12月31日

(単位：円)

費目	27年度予算	実績	実績差額	摘要
年会費	600,000	428,000	-172,000	156名214口(300口目標)
本部援助金	189,500	189,500	0	毎年3%減
同窓の集い会費	800,000	642,000	-158,000	80名(100名目標)
広告料	45,000	30,000	-15,000	3件目標(1件は昨年度納付済)
寄付・利息	-	60,066	60,066	
収入の部計	1,634,500	1,349,566	-284,934	
前年度繰越金	1,066,220	1,066,220	0	
合計	2,700,720	2,415,786	-284,934	

支出の部

同窓の集い会費	700,000	623,929	-76,071	
総会場・懇親会費		596,917		
その他諸費用		27,012		
会報費	600,000	539,138	-60,862	A4版32頁全カラー；1300部発行
会報印刷費		399,600		
会報配送費		101,576		
編集雑費		37,962		
会議費	120,000	110,307	-9,693	定例幹事会4回、その他の会議
交通費	160,000	73,600	-86,400	本部・8支部総会
本部・支部総会参加交通費		55,152		
一般交通費		18,448		
交流費	300,000	205,852	-94,148	
本部・支部総会参加会費		80,000		本部・8支部総会参加
同好会援助		120,000		6同好会援助
雑費		5,852		
振込み費	36,000	13,470	-22,530	
支出の部計	1,916,000	1,566,296	-349,704	
繰越金	784,720	849,490	64,770	三菱UFJ銀¥805,546 ゆうちょ銀¥850 現金¥43,094
合計	2,700,720	2,415,786	-284,934	

以上の通り報告致します。

平成28年5月 28日

会計幹事

森田 徹郎



監査の結果上記に相違ないことを認めます。

平成28年5月 28日

会計監事

高木 二郎



平成28年5月 28日

会計監事

田中栄太郎



平成28年度多賀工業会東京支部会計予算(案)

収入の部

平成28年1月1日～平成28年12月31日

(単位：円)

費目	28年度予算	前年度差額	摘要
年会費	400,000	-28,000	年会費(2,000x200口目標)
本部援助金	189,500	0	毎年3%減は昨年で終了
同窓の集い会費	640,000	-2,000	80名目標(88,000)
広告料	30,000	0	2件目標
寄付・利息	-	-60,066	
収入の部計	1,259,500	-90,066	
前年度繰越金	849,490	-216,730	
合計	2,108,990	-306,796	

支出の部

同窓の集い会費	600,000	-23,929	
会報費	500,000	-39,138	A4版32頁全カラー；600部発行
会議費	120,000	9,693	定例幹事会4回、その他の会議
交通費	100,000	26,400	本部・5支部総会へ参加
交流費	230,000	24,148	7支部祝い金・6同好会援助費
振り込み費	18,000	4,530	890x200
支出の部計	1,568,000	1,704	
繰越金	540,990	-308,500	
合計	2,108,990	-306,796	

シルクロードの旅

鈴木日出男(昭 30 学原)



まずシルクロードを簡単に解説します。シルクロードとは東の中国の西安から西はイタリアのローマまでの道で、オアシス路でも 3 本のルートがあります。

□天山北路（天山山脈の北を通るルート）

西安から来た道は敦煌で北に枝分かれして、ハミ～トルハン～ウルムチ～イーニン～カザフスタンなどを経てローマに至る。

□天山南路（天山山脈の南を通るルート）

敦煌で枝分かれした道はトルハンでさらに南に枝分かれし、コルラ～クチャ～アクス～カシュガルを経てパミール高原を超えてローマに至る。

□西域南路（崑崙山脈の北側の山裾を通るルート）

西安から来た道は敦煌を経てそのまま西に向かい、楼蘭～チャルクリク～チャルチャン～ニヤ～ホータン～ヤルカンドを経てパミール高原の手前のカシュガルで天山南路と合流するオアシスを結んだルート。

写真作品作りを趣味にしている私にとっては、ウイグル地区やタクラマカン砂漠の撮影は夢の夢でしたが、思いがけずに実現しました。写真仲間 2 人と西域南路のホータンからオアシスを結びメルケトを経由してカシュガルまで 10 日間の撮影旅行を計画してメンバー 15 名を集め、旅行会社にその案を持ち込みました。そのため PR 費など不要なので割安の旅行となりました、

◇1 日目 成田より上海に飛ぶ。上海（浦東）空港は思っていたより大きな空港でした。

上海泊り

◇2 日目 上海（虹橋）空港よりウルムチ経由でホータンに飛ぶ。朝の高速道路の混雑にはビックリし、国内線の機内での「反日映画」にはあきれ、タクラマカン砂漠の広さには再度ビックリ。ホータン泊り

◇3 日目 近郊の集落・タクラマカン砂漠等を撮影。

ホータン泊り



◇4 日目 近郊のバザール・織物工場等を撮影。

ホータン泊り

◇5 日目 ホータンより 380km 離れているメルケトにバスで移動。ホータンは玉(ギョク)で有名なので採掘風景・綿の収穫・棗の天日干し等を撮影。メルケト泊り

◇6 日目 メルケトより 120km 離れているカシュ



ガルにバスで移動。ウイグル族の集落・住居・民族舞踊等を撮影。

カシュガルにて 3 泊

◇7 日目 カラコラムハイウエーを走ると、崑崙山脈の雪山が見えてきた。クシミラク村での動物バザールを撮影。ラクダまでいたのにはビックリ。

◇8 日目 旧市街カシュガル名物「日曜バザール」等を撮影。バザールがあまり広いのでメンバー 1 名が迷子になる。

◇9 日目 カシュガル～ウルムチ経由で上海へ飛ぶ。上海泊り

◇10 日目 上海から成田へ飛ぶ。

この旅行では、始めに中国の国土の大きさに驚かされました。上海からホータンまで一日中国内線に乗り、ホータンに 23 時到着です。その間タクラマカン砂漠を 2 時間飛びました（約 1,800km）。次に感じたことは、大気汚染です。家庭などの燃料は豊富な石炭を使用しておりますので、ガスが棚引いてマスクが無いと外出が出来ない位でした。

また漢族のウイグル族に対する締め付けです。ウイグル地方は漢族が支配しており、いつでも監視されているようです。尖閣諸島問題でも、デパートの外壁に「尖閣諸島は中国の領土」の垂れ幕がありました。

民族問題は難しい問題ですが、日本に生まれた事が幸せに思う旅でした。

著者プロフィール

- ・昭和 30 年：大成設備（株）入社
 - ・平成 01 年：(株) 日本設計入社
 - ・平成 11 年：ネパール・トリブバン大学客員教授
- ※現在は全日本写真連盟、埼玉美術家協会会員

777 開発に参加して

田川 孝二 (昭 49 学精)



1974 年 3 月に茨城大学工学部精密工学科を卒業して川崎重工業(株) (以下 KHI と呼ぶ) へ入社した。就職先の選定においては若い時から物づくり・設計に携わりたかったのでより大きな物を製造している重工業を選んだ。入社時の配属希望は、第一希望が船舶、第二希望が航空機、第三希望が車両であった。

入社して配属されたのは船舶事業本部の修繕船事業部(神戸工場)であった。業務は修繕船がドック入り(定期整備や特別修理等)した時のエンジン部担当のエンジニアで、大きな船を 3 人(他は船体担当と電気担当)で切り盛りした。業務の内容は、船主の要求に基づく修繕作業内容とスケジュールの立案・工場側への指示、修繕作業に対する技術指示と判断、船主及び船級協会(船の安全基準を保証する機関)検査官との調整・交渉、作業完了後の報告書(請求書)作成といった内容であった。担当船がある期間は非常に忙しく毎日遅くまで残業して土日もなく場合によっては徹夜が続く事もあった。技術面では的確で確実な素早い判断が求められた。また船主は 1 時間でも早くドックから出したいと要求し、工場側は徹夜をせずに仕事を済ませたいと考えており、その狭間で非常に苦心した事も多かった。しかしながら、一隻の船のドック作業を船主と検査官と会社(現場、検査部門、営業等)の沢山の人間とコミュニケーションをとりながら業務を完遂させる経験は非常に勉強になった。自分のサラリーマン人生における礎になったと思っており大変感謝している。

突然だったが 1978 年秋に航空機事業本部(岐阜工場)へ異動になった。オイルショックの影響により船舶事業が落ち込んだ為、航空機部門へ大勢が異動した。その時期は、海上自衛隊の P-3C 及び航空自衛隊 F-15 のライセンス生産、並びにボーイングとの国際共同開発 767 がスタートした時期で非常に繁忙であった。異動後は設計部門に所属して P-3C の製造における設計技術を担当した。これまでに経験のない航空機の構造技術者で、勉強しながらの新しい業務であった。工場での製造機の技術支援と海上自衛隊における運用支援等を実施して、製造及び運用における色々な問題も経験した。

そして、1990 年 9 月からは大型旅客機ボーイング 777 (300~380 人乗、全備重量 250~350 トン、航続距離 9,500~16,000km) の開発に参加する事になり、

家族で米国シアトルへ赴任した。担当は KHI の製造分担である前部胴体の構造設計のリードエンジニアで、自分のチームには日本人と米国人が半々の構成



で 10~14 人の設計者がいた。米国駐在の 1 年半の期間は基本計画図を完成させる事が与えられたミッションであった。胴体直径は 6.2m と既に決まっていたが、各部の構造構成や板

厚等を決定して、かつ KHI で効率的に製造できる構造にしなければならない。機体全体及び胴体構造のコンセプトを決定させると共に、他社が製造する胴体との結合部や胴体内に装備される室内装備品や空調・電気等の種々システム部品とのインターフェイスも決める必要があった。胴体構造は 2~15mm 程度のアルミ合金で出来ているが、運航中に想定されるすべての荷重に耐えるように設計し、かつ 1g でも軽く設計するのが基本である。その相反する要求を満足する構造を実現させるために非常に苦労した。日本に戻って詳細設計を完遂して、777 初号機は 1995 年にエアラインに引渡された。その後の派生型機も含めて今日までに 777 シリーズは約 1,400 機が製造されており、現在はジャンボ(747)の後継機として世界中で運航されベストセラーになっている。

777 の開発は約 5,000 人が携わって実行され、5 年間と開発費約 5,000 億円を費やした非常に壮大なプロジェクトであり、その中で開発設計を経験できた事は非常に有意義な事であった。勿論業務以外でも 1 年半と短い期間であったが米国で生活した経験は家族も含めて大変良い経験になった。

旅行・出張の際には 777 に乗る事が多いが、そんな時多くの仲間や関係の人達と一緒にあって新しいものを設計・製造してきた事の素晴らしさ・楽しさを感じる。若い人達にも是非共もの造りの楽しさを味わって欲しいものである。

著者プロフィール

- 昭和 49 年：川崎重工(株) 入社 船舶事業本部
- 昭和 53 年：同上 航空事業本部へ異動、防衛省機の設計業務(P-3C 構造設計&運用支援、P-X/C-X 提案プロジェクト他)及び 777 開発設計(米国駐在)
- 平成 14~17 年：民間航空機設計部長、787 開発及び H-IIA ロケットフェアリング開発他
- 平成 20 年より：(一財)日本航空機開発協会へ出向

並木下宿の同窓会

加藤 邦治（昭 53 学子）

1. 下宿の面接試験



茨大工学部の1年生は、秋口以降になると、4月から住むことになる日立のすみか探しを始める。筆者は、水戸では下宿探しに出遅れ、大学から3.5 kmも離れた3畳一間の不便な下宿生活を強いられたため、日立暮らしでは挽回を期して

いた。高校の先輩が電子科にいたので下宿探시를事前にお願ひした。先輩は、大学の近くで食事がおいしいという「並木下宿」に、筆者と友達2人を連れて行ってくれた。

「並木下宿」のおばさんから、下宿の間取り、食事や風呂、料金等詳細を聞き、即座に4月入宿をお願いした。こちらが良いと言えば契約成立と単純に思っていたが、実はこの時、面接試験であったのだ。それを知ったのは、ずっと後であった。筆者らの直前に訪問した学生達には、「よその下宿も見て決めたらいいよ」とやんわりと「No」を言っていたのだ。商売と言え、3年は付きあうのだから、おばさんの目にかなった学生が良いに決まっている。こうして、「並木下宿」には、おばさんの面接試験の合格者が暮らしたのである。

2. 下宿生活

「並木下宿」は、4.5畳の間取りで12部屋が下宿用として昭和44年に新築され、食事付きでスタートした。おばさんは、高齢になる母親が切り盛りする下宿を引き継ぐため、東京の学生街の食堂をやめUターンしてきたので、料理の腕前はプロであった。

平日の夕食時になると、下宿生は食堂近くで待機し、「ごはんですよ」の声が掛かるやいなや、いす取りゲームのごとく6人先着のテーブル席に着くのであった。スパイスの効いた辛口特製カレーライスは絶品であったが、辛口がだめな下宿生には甘口を別に作ってくれた。筆者と友達は部活で帰りが遅く、おばさん家族といつも夕食を共にした。こうして下宿生は、食事を通しておばさんから細やかな愛情を受けていた。

「並木下宿」はとにかくユニークである。春には歓迎会、秋には芋煮会、卒業時には歓送会があり、記念写真のアルバムが沢山貯まっていた。

下宿の決まりの一つに、平日麻雀禁止があった。近所に騒音で迷惑をかけない配慮であった。テーブルに毛布を敷き隠れ麻雀をした下宿生もいたが、つい興奮

して大声を出してはおばさんに叱られたものである。並木下宿はまさに社会生活の教育の場でもあった。

3. 下宿の同窓会

家族のような下宿だったので、前代未聞の下宿の同窓会まで開催された。これまで3回開催されたが、筆者はもちろん並木下宿同窓会の幹事のひとりである。

第1回目は、開宿20周年の昭和63年にあり36名が参加した。第2回目は、30周年を記念して平成11年にあり31名が参加した。同年度末に下宿は廃業となったが、下宿の卒業生は全部で102名に達した。



(20周年記念誌)



(30周年記念誌)

第3回目は、昨年8月に開催され31名が参加した。おばさんの米寿を記念したもので、参加者持参の黄色のチャンちゃんコを着て記念撮影をした。参加者の年齢層は40~60代に及び、当時デートで下宿に来ていた友達の彼女は、奥様として参加した。



米寿とはいえ、おばさんの記憶力は抜群で、下宿生の当時のハプニング話に花が咲いた。同窓会の会場は、違った世代であっても、同じ時間に同じ下宿で共同生活をしてきたかのような不思議な感覚を共有した空間となった。後日おばさんから、「長生きする楽しみができた」と言われ、下宿時代の恩返しのできた気がした。同窓会は次回もありそうである。

著者プロフィール

- ・昭和53年：日本電信電話公社（現NTT）入社
- ・平成18年：NTTエレクトロニクス入社
- ・趣味：ジョギング、マラソン、映画鑑賞

自動車ラリー、 その素晴らしき仲間達と 40 年

丸島 國義 (昭 55 院電)



◆自動車ラリーとは

皆さん、石原裕次郎主演の「栄光への 5000km」なる映画を覚えていますか。これは自動車ラリーを主題にそれに係る人間模様を描いています。また本学の先輩である故難波靖治氏は自動車メーカーからドライバーとしてオーストラリアラリーに参戦しクラス優勝されています。自動車ラリーとは一般公道等を使い指示通りのルート及び速度で走り、その時間的正確さを争う競技です。比較的低速で走行時間に正確さを求めるものをタイムアベレージラリーと呼び他方、世界・全日本選手権では特別な車両を使い道路封鎖区間でその絶対速度を争うスペシャルステージラリーがあります。筆者らが学生の頃は大学自動車部が大学ラリーと称してタイムアベレージラリーを、また一般のラリークラブも一部に速さを競う特別区間を設定したラリーを多く開催していましたが、現在大学ラリーはほぼ消滅し一般ラリーも参加者が少ない状況です。本稿では筆者のラリーとの出会い、運命的に出会った仲間と共に趣味として 40 年のラリー活動の一端を紹介します。

◆ラリーや仲間との運命的出会いから今日まで

上段写真は競技を終え緊張の解けた仲間です左手より計算ソフト開発と補助計算の石井氏(農工大)、ドライバーの古川氏(国士館大)、主計算の浦野氏(電通大)、コース指示の筆者(職訓大)です。我々は東京武蔵野地区の大学自動車部で構成した武蔵野学生自動車連合(MSAA)のOBで大学も年齢も違い当時はそれ程強いパイプはありませんでしたが、卒業後に再度の出会いを経て今も強い絆で結ばれています。

筆者は職業訓練大学校の学生寮で一年間口説かれて 2 年次から入部しラリー活動がスタートしました。またジムカーナ、フィギア、ダートトライアル、整備競技会、競技車作製、車検、遠征、合宿、MSAA 会合等いろいろな体験の場があり、古川氏とは筆者らが主催したラリーの試走で面識を得ました。

茨大時代の思い出は水戸自動車部の練習ラリーで Y 氏の改造車で筆者がドライバー、Y 氏がナビで御前山を走りその車の早さに感嘆し、O 氏自作の当時画期的なラリーコンピュータを筆者の車に搭載し農大ラリーで準優勝、研究室先輩 S 氏とは高鈴山での練習、車談義等々です。後年 S 氏の結婚披露宴では OB 諸氏が乗車掛け声と乗者許可書贈呈で場を盛り上げ、同好の士とは良きものと感激しました。

第二精工舎で偶然同期入社となった浦野氏と出会い二人で東京や千葉のシリーズ戦でそれなりの成績を収め、また社会人ラリーチームにも入会しラリー

を作り続けこれが縁で古川氏とも偶然再会、石井氏と古川氏もラリーで再会し 4 人のパイプが繋がりました。その後も暫くは別々に参戦していましたが数年後から一緒に大学ラリーに参戦し古川氏は大学ラリー荒らしと異名を誇り、本学ラリーにも出場し優勝の難波杯が拙宅に鎮座しています。



その後大学ラリーは激減し全日本選手権の観戦や飲み会で往時を偲ぶ日々でしたが、偶然見つけた栃木茨城デイラリーシリーズに昨年参戦し年間タイトルは 1 位～3 位までが同得点の 3 位表彰(中段写真)でした。今年の初戦は準優勝で終えラリー雑誌からの取材も受け、下段写真は前夜の捕らぬ狸の皮算用中で至福の一時です。

◆ラリーや同窓会へのお誘い

ラリーの発祥は自動車の黎明期に欧州で車や運転を好む同好の会合で単に集うだけでは面白くないので所要時間を競うようになったもの、その語源は「再び集う」と言われています。今もラリーの度に新しい出会いがありライバル達も「また会いましょう」と言いながらエキゾーストノートに響かせ夕闇に消えて行きます。上記ラリーは茨城栃木開催が主体なので皆さん、特に現役部員や OB・OG の方は参加しませんか。情報やノウハウは提供いたします。連絡先は **0470-28-4956** です。

思うに貴重な出会いは同好の集まりや同窓会等に数多くあります。筆者もラリーや東京支部で多くの貴重な「出会いと縁」を得てこの文章を書く機会に恵まれました。日常とは別次元の出会いがある同窓会や同好の集まりにご参加されることを提案いたします。

著者プロフィール

- ・昭和 49 年：職業訓練大学校電気科入学
 - ・昭和 55 年：茨城大学修士課程修了、第二精工舎入社
 - ・昭和 59 年：オリエンタルモーター入社
 - ・平成 11 年：秋田大学博士課程修了
- ※現在：個人投資家

富士登山の勧め

高木 浩則（平 3 院情）



◆人生初の富士登山

皆さんも良くご存知の富士山は、1年のうちでわずか2カ月間しか登れない日本最高峰の山です。近年世界遺産に登録されたこと

とで更に人気が出ています。私が最初に富士登山に挑戦したのは、入社6、7年目の30代前半の頃でした。職場の同僚やご家族の方を含め男女10数名で、吉田口から登ることになりました。当時私は、簡単に登れるだろうなどと安易に考えていました。

◆富士登山の苦しみ

初日、天気は快晴。5～7合目までは会話や景色を楽しみながら皆でわいわい楽しく登っていましたが、8合目辺りで、私は「頭痛」「吐気」がする、いわゆる高山病になりかけていました。高山病は、誰にでも起こる訳ではありませんが、高度が高くなり酸素が薄くなることで引き起こされる症状です。本八合目の山小屋までの道のりが長いなのなんの。辿り着くのに本当に必死でした。

山小屋で夕食/仮眠をとり真夜中から登り始めたら、今度は雨が降ってきました。雨で寒いし、高山病の症状も出ているため、数歩歩いては立ち止まるという、まさに苦行といって良いほどの状況でした。

やっとのことで山頂に辿り着きご来光を待つものの、雲が重くのしかかっており、結局ご来光は拝めませんでした。頂上の山小屋でしばらく休息後、皆で下山を始めましたが、登るより、下山道を下りの方が本当に大変です。砂埃が舞う中、がれきで足が滑り足腰に非常に負担がかかります。やっとのことで下山道の真ん中くらいまで来たかなと下を見下ろすと、新たな視界には、今下りてきた以上に長い長いジグザグの道が見えて、絶望感すら感じました。結局、私の、人生ではじめての富士登山の印象は、『もう絶対、二度と登らない！』でした(笑)。

◆富士登山での達成感と薄らぐ記憶

下山後、山中湖近くの露天風呂につかりながら間近に見る雄大な富士山は、それは見事なものです。つい先程まで、あの山頂に立っていたと思うとなんとも言えない達成感があったのを覚えています。

その後7年間は富士山に登る気がまったく起こりませんでした。人間、辛い経験は次第に薄れていくもので、ご来光を見ていないこともあり、次第に何の確信もなく、今度登ったら楽に登れるのでは？という感覚が芽生え、再度挑戦することになりました。ですが、結局、高山病の症状の中、一步一步必死に登るという状況は変わりませんでした。

◆ご来光は最高

これだけ辛い思いをしながら、ご来光が見られたときの感動は格別です。特に明け方の気温が非常に低い中にご来光を浴びると、朝陽で体が少しずつ温まり、生きている実感が湧き、言葉では言い表せない程感動します。また雲間から下向きの光が射したときの光景の美しさは格別で、神々しさすら感じるほどです。後で調べてわかりましたが、「光芒」、「天使のはしご」などと言うそうです。

ご来光の感動が忘れられず、結局、これまで富士山に



計5回登りました。全て山頂まで登りきりましたが、ご来光が見られたのは3回です。山頂で体力/気力が十分に残っており、富士山頂を一周ぐ

るっと周る「お鉢巡り」ができたのは2回でした。

◆富士登山で学んだこと

富士登山を通して、地道に進めば必ず目的地に辿りつくことや、人との競争ではなく自分のペースで休息をとりながら地道に進むこと、自分の力を知ることなど、人生や仕事に関する面でもとても勉強になったように思います。

◆富士登山の勧め

世界遺産に登録されたこともあり、吉田口5合目では、日本人よりも、海外の観光客の方が多くいらっしゃいます。海外の方も多数登られています。

私の説明では苦行の方が目に付いてしましますが、皆さんも、一度富士山に登られては如何でしょうか。苦労した分、運よくご来光が見られれば最高ですし、下山後の雄大な富士山を見ながらの露天風呂も至福の時間です。また一緒に登った友人との一体感もあります。日常を離れた富士登山という経験の中で、自分と向き合いながら登ることで、人それぞれ何か得られるのではないのでしょうか。もちろん靴、レインウェア、防寒具などの装備はお忘れなく。

著者プロフィール

- 平成 03 年：日本電信電話（株）ソフトウェア研究所配属
 - 平成 11 年：NTT 東日本（株）
 - 平成 17 年：NTT コムウェア（株）
 - 平成 28 年 4 月：日本電信電話（株）サービスイノベーション総合研究所
- 趣味：ガーデニング、ドライブ、温泉、富士登山

与論島の魅力とヨロンマラソンについて

東 和樹 (平 11 院情)

1. はじめに



縁あって本稿の執筆を依頼されて何を書こうか迷いましたが、5年程前からマラソンを始めて、仕事で縁のあったヨロンマラソンへ昨年、今年と参加してきたのでみなさまにも与論島の魅力を知っていただきたく与論島とヨロンマラソンについて紹介したいと思います。

2. 与論島について

みなさまは与論島という島をご存知でしょうか。奄美群島の一つで鹿児島県最南端の島です。島の人口は6,000人程で、島1周が約21km程。この島の事を私が知ったのが今年の3月まで所属していたNTTラーニングシステムズへ出向してからで、当時NTTグループで行っていた”教育スクウェア×ICT”フィールドトライアルという教育実証事業に関わったことで、全国4自治体の公立小学校8校の中に与論町の小学校が含まれていたことからです。出向してすぐに全国の学校を仕事で訪れることができたのですが、特に与論島は本当に何もない場所なのですがゆったりした時間の流れと島の人の温かさが印象に残っていました。幸いにも何度か訪れることができたのですが、その度に故郷に帰ってきたような気分になりました。実証事業の終了に伴い訪れる機会もなくなったのですが、そういえば自分は5年程前からマラソンを年に何度か走るようになり、ヨロンマラソンが毎年あることも知っていたのでヨロンマラソンへ行けばいいんだ！と気づき2015年、2016年とヨロンマラソンへ仕事とは関係なく参加するようになりました。

3. ヨロンマラソン

ヨロンマラソンは毎年3月の第一日曜日に開催される大会で、フルマラソンの部とハーフマラソンの部があります。最近開催された2016年の大会で25回目の開催となり歴史のある大会です。一度でも与論島へ行ったことがあればわかりますが、マラソンコースは起伏とカーブが多くて非常に厳しいコースです。ハーフマラソンは島を1周、フルマラソンは島を折り返して2周。参加者は約1,000名で、その内フルマラソン参加者は300名程。都市部で開催される大会に比べれば規模も大きくないのですが参加者はほとんどがリピーターの方でその魅力は、島民一丸となつての盛り上がりや綺麗な景色そして大会前日のウェルカムパーティと完走パーティだと思います。マラソンに参加するには基本前日には与論島に来る必要があり、飛行機か船でくることになりま

す。空港や港では町役場や観光協会の方が総出で迎えてくれて、まずここで温かさを感じ、2回目以降の参加者は皆思わず「ただいま！」と言わずにはいれなくなります。そして、大会前日に開かれるウェルカムパーティ。町の体育館で開催されるのですが、軽食と飲み物を提供していただいて、当然のように与論島の島焼酎である「有泉」も振る舞われ島独自のおもてなしの飲み方(与論献奉といいます)で本当に明日マラソンをするのか？と言いたくなるほど盛り上がります。



与論空港でのお迎え



ウェルカムパーティの様様

たっぷり盛り上がり翌日はマラソン。厳しいコースですが島民総出の沿道からの応援は笑顔に溢れています。そして走り終わった後の完走パーティ。ウェルカムパーティも盛り上がりませんが、更に盛り上がり美味しいお酒を飲んでみんなで踊る。この完走パーティこそヨロンマラソンの楽しさの象徴だと思います。



走っている筆者
(今年はいにくの雨でした)



完走パーティの様様
(昨年の写真です)

4. 最後に

私の文章力でみなさまに与論島、ヨロンマラソンの魅力を十分に伝え切れる自信はありませんが、興味のある方は是非一度ヨロンマラソンへ参加してみてください。きっと来年も来よう！マラソン以外にも家族を連れて夏に来よう！と思っただけだと思います。決して私は与論島の宣伝を頼まれている訳ではありませんが微力ながら与論島の知名度向上に貢献したいと思い、今回は与論島とヨロンマラソンについて紹介してみました。また今年水戸でも初のフルマラソン大会も行われますので、そちらも是非参加しようと思っています。

著者プロフィール

- ・平成11年：NTTドコモ 入社
- ・平成25年：NTTラーニングシステムズ出向
- ・平成28年：NTTドコモ 復帰

支部長を終えて(支部活動を振り返る)

上月 秀俊(昭36学機)



私は、計らずも東日本大震災の年に支部長を引き受けた。以来、支部活動を前進させようと心掛けてきた。近頃若返りの難しさを感じており、先ず自ら有能な方々へバトタッチし更なる道を拓いて貰う事にした。

自己分析すると、私は典型的な「NOと云えない日本人」かも知れない。結果として、表題の原稿執筆依頼を引き受けることになった。

<幹事になった機会>：卒業後就職先企業内同窓会で、東京にある写真館として有名な東條會館の社長が多賀工業会の大先輩である事を知る。そして何年か後に、後輩を名乗り東條會館で結婚式を挙げた。その時大先輩の東條社長が顔を出してくれた上、式場まで付き添って戴き同窓生のよしみに深謝した。その後、昭和59年頃東京支部総会(東條會館)へ広瀬行一(昭38学電)氏から誘われ参加し、以降36卒の年度幹事役で東條會館での幹事会へ呼ばれた。何年間か数人の同期に声を掛け参加していたが、転勤により約10年ブランクができた。渡辺支部長の時に年度幹事に復帰し、近江支部長の時に会計幹事に指名され引き受けた。此の時の残高が7万余円であり、会計幹事の運営ご苦勞が伺えた。支部長の懐マナーを借りずキャッシュフローの切れない運営にすべく、兼子八郎(昭38学電)氏が会報編集と発送の改革・駒場方耀(昭38学機)氏が総会運営の改革に辣腕を振り、綿密な計画的推進により年度会計残高を4年位で100万円超えに改善した。この間幹事長要請を受け、遠方からの出席幹事への交通費の援助と、同好会援助費の倍増を図った。活動が軌道に乗り三本木支部長になる時、役員幹事を退くつもりで名前だけの副支部長を引き受け、中核の幹事長を広瀬さんをお願いした。

<支部長に>：ところが不幸にして後任の会計幹事が夏にジョキング中倒れ意識不明になり、急遽会計幹事代行となった。2011年は本部との合同総会の年で、行事計画・経費分担等本部との連携に迫られた。更に大震災があり3月末から幹事協力のもとで急遽募金活動を展開したが、記念行事の後ダレ・女子会の立ち上げ等混乱が続いていた。こんな時期、ある大先輩から「次期支部長はお前がやれ」と云われ思

案している時、当時の支部長からご指名があった。議論百出の多い幹事会で幹事長が苦勞していたので、ショートトリップで整理するつもりで引き受け、1期での交代を目論んでいた。

<なぜ2期も>：1年目後半女子会の創設・総会講演会講師の決定で混乱する中、幹事長が悪性リンパ腫で倒れ帰らぬ人になってしまった。この為、急遽幹事長に就任する事を主要幹事に打診したが、即就任を断られ少々時間をと云う理由で、1年間幹事長を兼務する事になった。その為3年目に新幹事長を選任して戴き、期中混乱を避けて幹事若返りを図りつつ引き継ぎを目論むことになった。実は引き継いだ支部長・幹事長は、8年位前に近い将来支部長・幹事長になって貰いたい幹事として推薦するつもりで考えていたので、ご両人共お忙しい様でしたが引き受けて戴いた。

<期中の出来事>：大変お世話になった近江元支部長・広瀬幹事長・幸道顧問・田崎幹事が、鬼籍に入られてしまった。皆さん直前までお元気であっただけに、誠に残念である。

(懸案の1)女子会は太田さん・鈴木さんのご協力で、支部幹事活動と同好会の仲間として発足にこぎつけた。更に会員から要望があったテニス同好会も、森永さんがリーダーとして纏めて戴き発足した。

(懸案の2)年会費納入者・総会出席者の増加策である。従来は75歳以上が40%近く締めていたが近年25%弱まで減少し、この分が若い層で補えずこの対策として幹事の若返り・女子会員増加策・筑波地区へ100部超えの会報配布による呼び込み等進めたが、効果は今後に期待である。

<今後取り組みたい事>：本部・工学部との連携による、同窓生との繋がり強化策の検討。近隣支部との合同総会を開催し、講演の講師を工学部の話題教授にお願いし、若手同窓生を研究室同窓会等の機会を作り総会参加活性化へ繋げる事が出来ないか。卒業前の学生・入社間もない卒業生に、多賀工業会・支部活動を如何に有効に周知させるか工夫相談して行きたい。誠に微力ではありますが、多賀工業会・東京支部の活性化を計る力になる様努めて行きたい。

<最後に>：本部並びに支部幹事・会員諸氏の御指導ご支援に深く感謝いたします。

著者プロフィール

- ・昭和36年～：いすゞ自動車(株)で主に品質管理部門
- ・平成元年～：タイ国いすゞ自動車(株)社長
- ・平成06～10年：いすゞバス製造(株)社長、相談役
- ・趣味：下手なゴルフ、温泉めぐり、他

トリスを飲んで ハワイに行こう！

三好 成實 (昭 39 学機)



卒業も目前に迫った昭和 37 年 1 月のある日のことである。当時、吼洋寮に寄宿していた機械工学科の我々 10 人はのんびりと、相も変わらぬ自由奔放な最後の寮生活を楽しんでいた。そして新聞を見ていた K 君が載っていた広告となにかを照らし合わせて突然大声を上げたのである。

かを照らし合わせて突然大声を上げたのである。

当時、我々貧乏学生が飲む酒といえば安酒が専らで、日本酒と国産ウイスキーを味わう程度だった。その国産ウイスキーには寿屋（現サントリー）、ニッカ、オーシャンなどのメーカーがあり、その中でも寿屋では普及品としてのトリスと高級ウイスキーのサントリーを出していた。街中でのバーの看板でもトリスバー、サントリーバーがあり、学生の身分では近寄れない高級店と比較的安価で飲める大衆店とを明確に区分していた。



昔のボトル



現在のボトル

この洋酒の寿屋が「トリスを飲んでハワイに行こう！」をキャッチフレーズにキャンペーンを打ったの



である。当時はまだ渡航制限もあって海外旅行に行くのは「夢のまた夢」という時代でもあり、この広告が世間に大反響を巻き起こしたのも当然であろう。ちなみにこのハワイがその後に新婚旅行の聖地として名をはせるのは昭和 40 年代の後半である。

前置きが長くなってしまったが、我々が金を出し合ってトリスを買ったときに店でもらった何枚かの抽選券のうち一枚がそのハワイ招待に的中したのを確認したのがこのときだったのである。さて、的中したのはいいがハワイ招待は当選者 1 名だけである。10 名程もいる仲間達全員が行けるわけでは勿論ない。それに卒業を控えた時期でもあるので、図々しい話ではあるが当選したハワイ旅行分を金銭で受け取れないかを寿屋と交渉することにして、久保谷君と前田君が急遽寿屋の本店のある大阪に向かったのである。我々は学生であり旅行には行かれぬこと。そして共同購入したものが当選したことなどを説明し、二人の粘り強い交渉の結果として金銭でうけとれることになったのである。現在、ハワイはツアーの価格で平均 10~15 万円程度で日本人が気軽に行ける所となっているが、当時は旅行費用も高価で 30 数万円が支払われたのである。当時の金で 30 数万円がどれほど大金だったかを想像してみたい。授業料が年間で 9 千円、寮での 1 ヶ月の費用が食費を含めて 3 千円あまり、そしてこの年の 4 月に就職した我々の初任給が 2 万円前後だった時代のことである。その金をどう使うかが問題となり鳩首協議の結果、まず全員が卒業を控えた時期でもあり、スーツ（背広）を新調することにしたのである。そして残りの金を恵まれない子供たちへ寄付するとともに、在学中にお世話になった先生がたを日立市内の中華料理店に招いて祝宴を開いたのである。吼洋寮で過ごした時代の最後のエポックとしてこの事件は忘れられないものとなっている。

このときの 10 人は在学当時に故春日先生宅に日頃から押しかけてご迷惑をかけた仲間と重なっており、春日夫人が名づけ親となった「ゼブラ会」として現在に至るまで家族ぐるみの交流を続けている。

著者プロフィール

- ・昭和 13 年：宮城県仙台市生まれ
- ・昭和 39 年：茨城大学工学部機械工学科卒業
- ・昭和 39 年：トピー工業（株）入社
- ・平成 11 年：三好技術士事務所を主宰

千葉県支部の紹介

支部長 綿引 貞男（昭 38 学電）



千葉県支部はお陰様で今年（平成 28 年）創立 60 周年の記念すべき年を迎えることとなりました。初代支部長原田正夫大先輩（昭 16 専精）から数えて私が第 8 代の支部長となります。これまで諸先輩の方々の努力により支部運営がなされてきたわけですが時代の背景も変わり、価値観の多様化等の要因により同窓会活動なるものが衰退してきていると感じるのは私だけではないと思う。

支部紹介ということで現在の千葉県支部活動の概要を以下に述べさせていただきます。

主たる行事としては**支部総会**（毎年特別の事情がない限り 5 月の第 4 土曜日に実施、場所は固定していない）、**新年会**（毎年祝日である成人の日に実施。史跡万歩会の計画に従い神社仏閣への初詣も実施）、**幹事会**（3, 4, 9, 10, 11, 12、2 月の第 1 日曜日に近隣の公民館を借りて開催）、**同好会活動—囲碁の会**（年 4 回地元公民館等を利用して懇親囲碁大会を実施）**ゴルフの会**（春夏秋の年 3 回懇親コンペを実施。特に春は 5 支部懇親コンペの代表選考を兼ね代表者を懇親コンペに派遣）、**俳句の会**（俳句に造詣の深い塚越要夫顧問（昭 25 専電）の指導の下年 2 回俳句コンクールを実施）、**史跡万歩会**（年 5 回各地の名所旧跡巡りを実施。うち 1 回は日帰りバス旅行を行っている）、その他として**ホームページの維持管理**（ホームページの内容は常にアップデートをし最新の情報を載せている）。



（総会の集合写真）

以上主たる行事の概要を述べさせていただきますし

たが、参加メンバーがほぼいつも固定で新しい会員の参加がほとんどないのが悩みの種でもあります。



（懇親会の一コマ）



（史跡万歩会のバス旅行）

支部活動の基本は、本部よりの支援金と支部会員からいただく年会費をベースに運営をしているわけですが、年会費の納入者は年々減少。この 10 年の変化を見てみると、平成 17 年度納入者 184 名・平成 27 年度納入者 105 名で、平成 17 年度対比で 57%（約 4 割減少）となっているのが現状であります。会員の高齢化と若手の伸び悩みという現状を、指をくわえて眺めていても仕方ありません。どうしたら活性化を語り・活動を活発化できるのか永遠の課題とは思いますが他支部の活動も参考にし、又、ご指導ご支援なども得ながら、私どもの幹事の方々と力を合わせ改善の努力をしてゆく所存であります。

著者プロフィール

- ・昭和 15 年：常陸太田市生まれ（太田一高卒）
- ・昭和 38 年：沖電気工業（株）入社
- ・平成 08 年：F C I - J（フランス系）に転籍
- ・平成 12 年：F C I - J 定年退職
- ・平成 25 年：千葉県支部長に就任、現在に至る

同好会活動

囲碁部

部長 田中 栄太郎 (昭 40 学化)

現在、会員の登録者は、昭和 31 年卒の先輩から 46 年卒の方々までの 23 名で、棋力は七段から 4 級までいろいろです。

大会は、年に 4 回 2 月、5 月、11 月の第 2 土曜日と 8 月の第 1 土曜日に東京駅近くの碁会所「いずみ囲碁ジャパン」で行います。

試合は、午前 10 時半から夕方まで、参加者各人が 5 回対局する方式で熱戦を繰り広げます。

初参加時の棋力は申告制で、ハンディ制を採用しているので、段級位にかかわらず、勝つチャンス

があるような運営システムでやっています。成績次第で、段級位が昇降します。囲碁に関心のある方は、ご参加ください。

会費は 2,000 円 (入場料、運営費を含む) で 1 位から 6 位まで (参加者数による変更有り) の方と実力を発揮できなかった方 1 名に奨励賞が授与されます (準スイス方式を採用)。

対局終了後、会場近くで、希望者による簡単な懇親会を行っています。

連絡窓口

部長 : 田中 栄太郎 TEL 0466-82-4988

平成 27 年度の大会入賞者 (支部会報第 18 号記載以降) は以下のとおりです。

大会	開催日	優勝	準優勝	三位	四位	五位	六位	参加者
62 回	2015-05-09	上田四段 (電 37)	田中四段 (化 40)	山下七段 (電 32)	藤沼五段 (機 43)	山田五段 (電 42)	—	11 名
63 回	2015-08-01	飯村初段 (電 36)	山崎 3 級 (原 31)	田中四段 (化 40)	富田初段 (機 41)	上田四段 (電 37)	—	11 名
64 回	2015-11-14	安田四段 (子 46)	飯村初段 (電 36)	山下七段 (電 32)	山田五段 (電 42)	寺内賢一四段 (電 38)	寺内道義六段 (化 44)	15 名
65 回	2016-02-13	真下七段 (機 36)	佐々木四段 (電 38)	藤沼五段 (機 43)	上田四段 (電 37)	山田五段 (電 42)	桜井将英六段 (機 43)	17 名



第 65 回囲碁大会参加者 (場所 : いずみ囲碁ジャパン)

前列左から、山田五段、小室五段、白石二段、飯村二段、真下七段、田中四段、阿部三段
佐々木四段、寺内道義六段、藤沼五段 後列左から桜井将英六段、桜井衛二段、上田四段
柏木 2 級、安田四段、粕谷二段

以上

ゴルフ部



副部長 佐藤将彦 (昭 43 学子)



「多賀いちょう会」と銘打って、春秋各1回のコンペ開催と近隣五支部による対抗戦(各支部持ち回り)への参加を行っております。会員数は33名です(平成28年1月現在)。平成27年度活動報告と平成28年活動計画は次のとおりです。(氏名は敬称略及び卒年の「昭」省略)。

1.平成27年度 第28回春季コンペ

- ・開催日：平成27年4月10日(金)
- ・場所：相武カントリー倶楽部(初開催)
- ・参加者：12名(以下、順不同)

上月秀俊(36学機)、小林一(38学機)、駒場方耀(38学機)、兼子八郎(38学電)、大久忠雄(38学電)、磯部亮(38学精)、北島正保(39学機)、富田瑞穂(41学機)、青野潔(41学化)、大泉雅靖(40学精)、角田勇(43学子)、佐藤将彦(43学子)

- ・優勝：佐藤、2位：駒場、3位：大泉
- ・競技方法：新ペリア方式



第28回 多賀いちょう会春季ゴルフコンペ
(於 相武カントリー倶楽部)

2.平成27年度 五支部対抗懇親コンペ

(幹事担当 埼玉支部)

- ・開催日：平成27年6月2日(火)
- ・場所：新東京ゴルフクラブ
- ・参加者：20名(当支部からは第28回春季コンペのグロス上位4名の小林一、北島正保、富田瑞穂、青野潔の各氏が参加)。団体戦は健闘空しく最下位。個人戦は、3位に富田瑞穂氏が入賞した。平成28年度は栃木支部担当。

3.平成27年度 第29回秋季コンペ

- ・開催日：平成27年10月30日(金)
- ・場所：取手桜が丘ゴルフクラブ(初開催)
- ・参加者：10名(以下、順不同)

上月秀俊、小林一、兼子八郎、森俊和(40学化)、平山隆司(40学化)、富田瑞穂、青野潔、西岡周二(47学機)、角田勇、佐藤将彦

- ・優勝：青野、2位：佐藤、3位：小林
- ・競技方法：新ペリア方式



第29回 多賀いちょう会秋季ゴルフコンペ
(於 取手桜が丘ゴルフクラブ)

4.平成28年度第30回春季コンペ(結果はHP)

- ・開催日：平成28年4月12、13日(水)
- ・場所と参加者(順不同)

12日：森林公園ゴルフ倶楽部(10名)

上月秀俊、上田正雄(37学電)、小林一、駒場方耀、兼子八郎、大久忠雄、青野潔、角田勇、西岡周二、佐藤将彦

13日：ヘリテイジゴルフコース(7名)

上田正雄、兼子八郎、平山隆司、青野潔、角田勇、西岡周二、佐藤将彦

- ・競技方法：両日とも新ペリア方式

30回目の記念大会であり、ゆっくりと温泉に1泊(6名)し、2プレーと懇親宴会を実施。成績等詳細はHPご参照。2日間のネット1位者には、優勝盾贈呈。また、五支部対抗懇親コンペの予選会を兼ね、2日間計グロス上位4名を選出。

5.平成28年度五支部対抗懇親コンペ(詳細はHP) (栃木支部担当)

- ・開催日：平成28年6月8日(水)
- ・場所：サンヒルズカントリークラブ

当支部が3年ぶりに団体優勝!そして個人戦は青野氏-優勝、平山氏-5位、角田氏-8位、西岡氏-12位。

なお、平成29年度は当支部が幹事担当の予定。

6.平成28年度 第31回秋季コンペ予定

- ・開催日：10月下旬予定
- ・場所：未定。

☆若手・女性の入会、スポット参加期待!!

連絡窓口 部長：青野 潔 044-954-2573

副部長：佐藤将彦 050-7524-0949

山遊会

会長 小森廣樹(昭42学機)

平成27年、「曾我梅林鑑賞と曾我・国府津丘陵ハイキング」と「筑波山登山」を行いました。その概要を記します。

なお、山行計画ごとに「多賀工業会東京支部」のホームページに掲載して参加者を募集しています。会員でない方の参加も歓迎します。

1. 第49回行事 曾我梅林鑑賞と曾我・国府津丘陵ハイキング

実施日：2015年2月23日(月)日帰り

行程：下曾我駅ー原梅林ー別所梅林ー中川原梅林ー瑞雲寺ー(昼食)ー宗我神社、城前寺ー伝曾我祐信宝きょう印塔ー六本松跡、一本松跡ー五国峠碑、西山農道休憩所ー上ノ山農道入口ー国府津駅

参加者(敬称略)7名：矢野睦男(32学原)、兼子八郎(38学電)、白石道彦(38学化)、田中栄太郎(40学化)、青野 潔(41学化)、小森廣樹(42学機)、藤沼隆夫(43学機)(初参加)

〈概要〉10時40分御殿場線の下曾我駅から出発。天候は晴。ここは関東有数の梅林で、500年くらい前に植えられたのが始まりで、今では3万5千本もの梅の木があり、なかには樹齢350年の古木も見られた。梅林を鑑賞して「国府津・曾我丘陵ウォーキングコース」に入る。瑞雲寺で昼食後、丘陵に入る。丘の斜面にはミカン畑が続いている。この峠の交差点である、芭蕉や蕪村も通ったという六本松を過ぎ、いくつかの農道を通って16時、ハイクコース終了。

2. 第50回行事 筑波山登山

実施日：2015年5月31日(日)日帰り

行程：つくばセンターー(バス)ーつつじヶ丘ーおたつ石コースー弁慶茶屋跡ー女体山(昼食)ー男体山ー御幸ヶ原ー御幸ヶ原コースー筑波山神社ー筑波山神社入口ー(バス)ーつくばセンター

参加者(敬称略)6名：矢野睦男(32学原)、兼子八郎(38学電)、寺内賢一(38学電)、小森廣樹(42学機)、藤沼隆夫(43学機)、佐竹ふみ子(特別会員)

〈概要〉天候は登山日和、最高のコンディション。10:05おたつ石コースから登る。弁慶

茶屋跡(742m)を過ぎ、11:00出船入船に着く。被写体として格好の岩があり記念撮影。

ここから分岐点を過ぎ、女体山(877m)頂上へ11:30に着く。ここで昼食を摂り、12:30御幸ヶ原(800m)に向けて下山開始し、13:05男体山(871m)頂上へ到達。ここで記念写真を撮り、下山。御幸ヶ原に戻り、そのまま麓の筑波山神社(267m)へ向けて下山コースに入る。下山途中では、水が湧き出ている水飲み場やケーブルカーのすれ違い場所を通って神社には15:00の到着。無事に登山は終わった。



〈下曾我駅前〉左から藤沼、小森、田中、白石、兼子、青野、矢野



〈筑波山登山口〉前列左より藤沼、兼子、後列同矢野、小森、佐竹、寺内

3. 2016年1月30日(土)

新年会を兼ねて2016年の春、夏、秋、冬の各時期の行事計画を立てた。

- ◇水仙に怪あり花の茎は葉に退化したるか 進化したるか
 - ◇花茎のなき水仙の株すべて葉を五枚もち 摩訶不思議なり
 - ◇級友と二人収まる筑波山何れが今日を思ひ出づるや
 - ◇筑波嶺に立ちて我が家を見さくれば山また山に取り囲まれて
- にゃんここと 兼子八郎

写真部

副部長 三好 成實 (昭39学機)

例年どおり多賀工業会主催の日立キャンパスでの「こうがく祭」の写真展示、東京支部「同窓の集い」での写真展と会員参加による撮影会を開催しました。



1. 「こうがく祭」での写真展示

6月1日に工学部日立キャンパスで「こうがく祭」が開催され、多賀工業会主催のOBによる写真展に東京支部も埼玉支部とともに参加しました。昨年までの多賀工業会館での展示から、場所を変えての展示で学生をはじめ多くの観客が訪れて盛会となりました。東京支部写真部からは7人が12点の作品を展示して、さいたま支部の17点と併せて計29点を出品しました。



(「こうがく祭」展示風景)

2. 第35回東京支部「同窓の集い」写真展

7月11日に開催された東京支部「同窓の集い」で例年どおり部員が作品を持ち寄り写真展を開催しました。この写真展示には8人が参加12点の写真作品と玉川信二氏の「海を渡った仏像」と題する展示がおこなわれました。この展示での出展リストと作品から抜粋したものを22～23ページに掲載させていただきました。

3. 撮影会の開催

7月28日に「都電の走る街」というテーマで撮影会を開催しました。参加者は4人。

JR大塚駅に集合、庚申塚周辺、とげぬき地蔵などを撮影して王子の飛鳥山公園までいきましたが、酷暑のため三の輪までの予定をここまでで打ち切り解散しました。



(庚申塚駅にて)

4. その他

写真展などでの入賞が相次ぎました。主なものをあげると以下のとおりです。

◇平成27年第65回埼玉県展・入選

「朝の光の中で」 鈴木日出男

◇第14回全日本モノクロ写真展・

朝日新聞社賞

「名刹の鐘」 小林 渡



◇第59回全神奈川写真サロン公募展・特選

「美味しい匂い」 小林 渡

連絡窓口

部長：柳下 幸夫 TEL 03-5497-0703

副部長：三好 成實 TEL 042-726-6538

平成 27 年度同窓の集い作品展 出展写真から抜粋

『平成 27 年第 65 回埼玉県展入選』

「朝の光の中で」・ネパール
鈴木 日出男 (昭 30 学原)



「深川水かけ祭」・東京都江東区
三好 成實 (昭 39 学機)



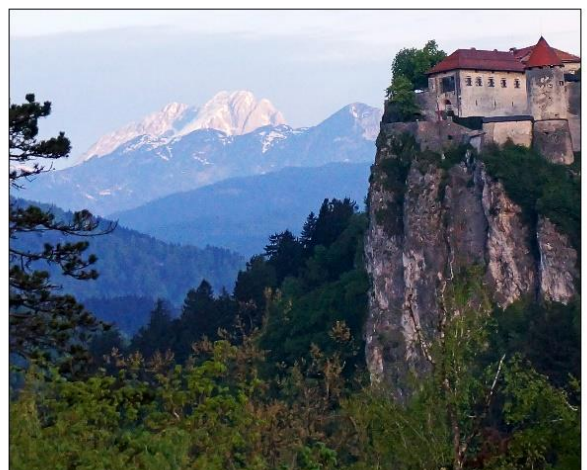
「海を渡った仏像」・自宅
玉川 信二 (昭 28 学電)



「至福のひとつとき」・モスクワ
山崎 慎一郎 (昭 31 学原)



「トリグラフ山ブレット城」・スロベニア
坪 弘 (昭 37 学機)



「復元された石橋」・ボスニアヘルツェゴビナ
坪 弘 (昭 37 学機)



『第 59 回全神奈川写真サロン公募展特選』

「美味しい匂い」・中国ホータン近郊
小林 渡 (昭 38 学電)



「ボンボアイヤージュ」・横浜市八景島
澤野 孝慈 (昭 37 学機)



「Magic Time In お台場」・東京都お台場
三好 成實 (昭 39 学機)



平成 27 年度同窓の集い作品展・出展リスト

NO	撮影者	卒業年度	作品題名	撮影地	D:デジタル F:フィルム	備考
1	鈴木日出男	昭 30 学原	「朝の光の中で」	ネパール	D	平成 27 年第 65 回埼玉 県展入選
2	山崎慎一郎	昭 31 学原	「至福のひとつとき」	ロシア・モスク ワ	D	
3	坏 弘	昭 37 学機	「トリグラフ山ブレット城」	スロベニア	D	
4	〃	〃	「復元された石橋」	ボスニアヘル ツェコビナ	D	
5	澤野孝慈	昭 37 学機	「ボンボアイヤージュ」	横浜市八景島	D	
6	〃	〃	「バレリーナ」	〃	D	
7	小林 渡	昭 38 学電	「名刹の鐘」	横浜市総持寺	D	第 14 回「全日本モノク ロ写真展」朝日新聞社賞
8	〃	〃	「美味しい匂い」	中国ホータン 近郊	D	第 59 回「全神奈川写真 サロン公募展」特選
9	三好成實	昭 39 学機	「深川水かけ祭」	東京都江東区	F	
10	〃	〃	「Magic Time In お台 場」	東京都お台場	F	
11	玉川信二	昭 28 学電	「海を渡った仏像」	自宅	D	彫った仏像とともに、写 真展示
12	柳下幸夫	昭 49 学機	「炎のステンドグラス」	フィリピン セブ島	F	
13	〃	〃	「北極点の日の出」	アラスカ上空 機上	F	

女子会

会長 太田 (旧姓 野原) 悦子 (昭 60 学電)



いつも東京支部女子会にご支援をいただき、同窓の皆様には感謝申し上げます。
今年度は 2 つのトピックスをご報告させていただきます。

1: 同窓の集いで女子会メンバーが講師を担当

当初からの女子会メンバーでもある山本夏江さんが講師を務めました。昨年の会報に寄稿いただいた、福島での震災後のボランティア活動に端を発した、相馬野馬追を横須賀みこしパレードに招待し馬追を実施するまでのお話です。

講演内容の詳細につきましては、別報告書ページで講師感想と併せてご参照いただければ幸いです。紙面ではお伝えできないほど熱気にあふれた非常に印象に残る講演会でした。同窓生として、多いに刺激を受けたのは私だけではなかったのではないのでしょうか？
又、今回は 5 名参加と多くの女子会員の参加がありました。尚、当初は参加予定でしたが残念ながら変更となった方も多くいらしたことも合わせてご報告させていただきます。



2: 日立総合 同窓の集いへ参加

2015 年 6 月 26 日、東京支部幹事として日立総合支部の同窓の集いへ初参加致しました。新たに 2 名の女子卒業生と知り合え、日立地区

での女子会員増へとつながられました。
このように直接他支部へ伺う事で、少しでも会員数増加につながればと思います。

私自身は、すっかり「大人」となった学生時代の知り合いに数十年ぶりで再会できる機会のはずだったのですが、時間切れとなりほとんどお話できなかった事がとても残念でした。お話の続きや、お知り合いの女子卒業生で紹介いただける場合など、お気軽に文末の女子会アドレスへご連絡いただけましたら幸いです。



3: その他の活動

- ・初めて人文学部卒の女子卒業生をご紹介いただきました。
- ・2016 年 1 月 23 日新年会を雪の残る日立にて開催しました。



女子会ではいつでも皆さんからのご連絡を歓迎いたします!! どうぞお気軽に以下のアドレスへご近況などをお知らせくださいませ。

多賀工業会東京支部女子会

(男性会員の方もどうぞ)

メールアドレス :

denki.nohara@gmail.com



テニス部

部長 森永 隆宏 (昭36学機)

1. 平成27年5月11日(月) 第1回練習会

- ・場 所：小金井公園テニスコート (2面)
- ・参加者：8名 (森永・鈴江・河上・徳江・小室・齋藤・村上・金子)



3時間の練習で気持ち良い汗をタップリ掻き、終了後場所を移して懇親を深めながら27年度の

の活動内容を打合せした。

2. 平成27年9月25～26日(土) 福島大学とのOB・OG交流戦

- ・場 所：那須スポーツパーク (一泊二日)
- ・参加者：茨城大学10名(東京支部5名)、福島大学9名

丁度お昼頃に会場集合となり、昼食を取りながらスケジュールの説明を聞いた。生憎の雨模様だったが、屋内コートを使用できたので、対抗戦形式で組合せを変えながらプレーを楽しんだ。夕食は屋外でのバーベキューであったが、話も弾んで大盛況の交流会となった。その後室内に移動して残りの食材・アルコールを戴きながら、昔の歌声喫茶と化した。二日目は前夜の疲れからか、皆さん動きがスローでした。



3. 平成27年11月14日(土) 茨城大学テニス部との交流会 (茨苑祭と同日開催)

- ・場 所：茨城大学本部 (水戸)

- ・参加者：野田監督、現役8名、卒業生19名(東京支部3名：森永・河上・村上)

はっきりしない天候だったが、まずはテニスで汗を流し、その後水戸駅前の店に場所を移して大懇親会を開いた。



4. 平成27年12月2日(水) 第2回練習会

- ・場 所：小金井公園テニスコート (1面)
- ・参加者：6名(森永・小室・河上・齋藤・村上・金子)

肌寒い天候ではあったが、きちんと準備運動から入り、予定した練習を消化した。練習終了後、場所を移しての反省会には鈴江・徳江も駆けつけ、来年度の活動方針を打ち合せた。



連絡窓口

部長：森永 隆宏 TEL 042-536-6173

メールアドレス：ta-mori@jcom.zaq.ne.jp

平成 28 年度東京支部 組織体制と担当役務

平成 28 年 6 月 5 日

- ◇顧問 三本木 武 (昭 30 学金)、鈴木日出男 (昭 30 学原)、山崎慎一郎 (昭 31 学原)
矢野 睦男 (昭 32 学原)、上月 秀俊 (昭 36 学機、多賀工業会副会長・理事)
- ◇支部長 小林 一 (昭 38 学機、多賀工業会理事)
- ◇副支部長 駒場 方耀 (昭 38 学機)、小林 渡 (昭 38 学電)、兼子 八郎 (昭 38 学電)
- ◇幹事会 幹事長 大泉 雅靖 (昭 40 学精)
副幹事長
会計幹事 森田 徹郎 (昭 42 学電)
- ◇会計監事 高木 二郎 (昭 38 学化)、田中栄太郎 (昭 40 学化)
- ◇会報編集室 編集室長 金子 芳久 (昭 48 学機)
副編集室長 柳下 幸夫 (昭 49 学機)
編集室員 兼子 八郎 (昭 38 学電)、小林 渡 (昭 38 学電)、藤枝 伸一 (昭 45 学子)
加藤 清 (昭 50 院精)、小澤 喜宏 (昭 53 学子)、鈴木 葉子 (昭 62 学化)
二川 克美 (昭 63 院情)、
- ◇ホームページ編集室 編集室長 黒澤 郁雄 (昭 45 学精)
副編集室長
- ◇名簿編纂室 編纂室長 飯塚 英一 (昭 46 学電)
副編纂室長 兼子 八郎 (昭 38 学電)
編纂室員 駒場 方耀 (昭 38 学機)
黒澤 郁雄 (昭 45 学精)
柳下 幸夫 (昭 49 学機)
太田 悦子 (昭 60 学電)
- ◇幹事会事務局 小林 一 (昭 38 学機) 支部長
大泉 雅靖 (昭 40 学精) 幹事長
森田 徹郎 (昭 42 学電) 会計幹事
黒澤 郁雄 (昭 45 学精) ホームページ編集室長
飯塚 英一 (昭 46 学電) 名簿編纂室長
金子 芳久 (昭 48 学機) 会報編集室長
- ◇同好会 囲碁部 部長 田中栄太郎 (昭 40 学化)、副部長 山田 恵規 (昭 42 学電)
ゴルフ部 部長 青野 潔 (昭 41 学化)、副部長 佐藤 将彦 (昭 43 学子)
写真部 部長 柳下 幸夫 (昭 49 学機)、副部長 三好 成實 (昭 39 学機)
山遊会 会長 小森 廣樹 (昭 42 学機)、副会長 小宅 仁 (昭 36 学電)
副会長 青野 潔 (昭 41 学化)
女子会 会長 太田 悦子 (昭 60 学電)、副会長 鈴木 葉子 (昭 62 学化)
テニス部 部長 森永 隆宏 (昭 36 学機)、副部長 河上 弘一 (昭 38 学機)

平成27年度会費納入者

(敬称略、順不同)

平成28年1月以降の納入は掲載していません。

氏名の後の○は平成28年度以降分を同時納入もしくは既納入の方で中の数字は前納となる年数を示します。

* 会費ご納入有難うございました。納入された方で記載漏れや間違いがありましたらご寛恕の上、ご連絡お願い致します。また、未納の方はご入金をお願い致します。

(本名簿作成者:名簿編纂室 飯塚)

Tel:045-755-1588 E-Mail:elias_ii.ggr@f5.dion.ne.jp

昭17専金 坪能 進	昭31学原 瀬在 城雄	昭37学化 阿部 徳治	昭38学精 市村 敬司 ④
昭18専機 宮崎 至誠	昭31学機 高橋 義博	昭38学機 河上 弘一	昭38学精 黒羽 昇
昭18専機 山本 栄治	昭31学原 山崎 慎一郎	昭38学機 小林 一	昭38学精 矢嶋 國男
昭18専金 市島 健男 ⑥	昭31学電 大内 孝	昭38学機 駒場 方耀	昭38短機 箱山 雍 ②
昭19専原 朽本 二郎	昭31学電 藤川 俊明	昭38学機 桜井 衛	昭39学機 北島 正保
昭19専精 柳田 裕美	昭32学原 金子 栄	昭38学機 丹下 宏	昭39学機 小林 章夫
昭22専機 佐藤 喬太郎 ③	昭32学原 矢野 睦男	昭38学機 徳江 景英	昭39学機 佐川 六郎
昭22専金 明石 和夫	昭32学機 伊藤 義次	昭38学機 豊田 元雄	昭39学機 三好 成實
昭22専金 土屋 敏夫 ①	昭32学機 國井 榮次	昭38学機 中村 好秀	昭39学電 塚本 文彦 ①
昭22専通 中村 弘	昭32学機 平沢 正一	昭38学機 長谷川 幸夫 ②	昭39学電 原 俊彦 ①
昭22専通 前田 豊昭	昭32学電 山下 正明	昭38学機 半田 守正	昭39学金 横山 安行 ②
昭23専機 梅田 政夫	昭32学電 渡辺 英雄	昭38学機 益子 洋一	昭40学機 武田 紀男 ②
昭23専電 塩野 譲 ①	昭33学原 山崎 勝雄	昭38学電 内田 茂	昭40学電 手塚 勇夫 ①
昭24専通 海老原 和	昭33学原 吉久保 節男	昭38学電 大竹 充 ①	昭40学電 山崎 輝行
昭24専舶 杉山 六郎	昭33学機 奥 康治 ⑤	昭38学電 大久 忠雄	昭40学金 松本 二郎
昭25専原 忍田 邦夫	昭33学電 鈴木 賢	昭38学電 兼子 八郎 ②	昭40学化 田中 栄太郎
昭25専電 村上 錦右	昭34学電 千葉 克男 ③	昭38学電 熊谷 文男 ①	昭40学化 平山 隆司
昭26専通 菊地 玲二 ⑩	昭35学機 高野 久弘	昭38学電 小島 淳	昭40学精 大泉 雅靖
昭28学原 戸島 日出雄	昭36学機 柏木 尚	昭38学電 後藤 紀夫	昭40学精 堀野 州男
昭28学機 坂場 昭二	昭36学機 栗橋 貞夫	昭38学電 小林 渡	昭41学機 富田 瑞穂
昭28学機 高田 丈夫	昭36学機 上月 秀俊	昭38学電 坂野 栄	昭41学化 青野 潔
昭28学電 稲見 孝	昭36学機 堺 茂郎	昭38学電 佐々木 登喜夫 ①	昭41学化 岡本 実
昭28学電 玉川 信二	昭36学機 真下 知行 ②	昭38学電 橘 弘	昭41学化 小沼 淳志 ④
昭28学電 橋本 久美	昭36学機 森永 隆宏	昭38学電 寺内 賢一 ①	昭41学化 橋川 隆夫
昭28学電 藤田 史郎	昭36学機 横山 馨	昭38学電 橋本 政巳 ⑥	昭41学化 矢島 勝司 ⑤
昭28学金 赤城 清	昭36学電 飯村 卓郎 ⑧	昭38学電 綿引 貞男 ①	昭42学機 小森 廣樹
昭29学原 石橋 弘	昭36学電 小宅 仁 ①	昭38学金 海老原 雄二	昭42学機 菅谷 禎男
昭29学機 永島 隆	昭36学電 橋本 正直	昭38学金 笹沼 篤夫	昭42学機 高橋 勝
昭29学電 森 章太郎 ①	昭36学金 高信 和明	昭38学化 大塚 進 ④	昭42学機 藤嶋 久波
昭30学原 鈴木 日出男 ①	昭37学機 坏 弘	昭38学化 小田倉 勝夫	昭42学電 粕谷 利夫 ①
昭30学機 小室 敏之	昭37学機 菊池 耕基	昭38学化 小池 利彦	昭42学電 森田 徹郎
昭30学機 佐藤 久弥	昭37学機 宮沢 信夫	昭38学化 柴崎 康 ④	昭42学電 山田 恵規 ③
昭30学機 檜山 邦良	昭37学機 野本 光彦 ③	昭38学化 白石 道彦 ①	昭42学金 小菌井 健 ③
昭30学機 松澤 勝海 ④	昭37学機 堀 恒夫	昭38学化 高木 二郎	昭42学精 下ノ村 勇 ③
昭30学電 木村 好延	昭37学電 上田 正雄	昭38学化 矢部 功一 ⑤	昭42学精 山本 蕃
昭30学金 三本木 武	昭37学金 舟田 隆 ①	昭38学精 磯部 亮	昭43学電 後藤 豊弘 ②

昭43学子 小澤 茂	昭45学精 長部 弘志 ③	昭48学化 駒坂 俊樹 ④	昭55学機 長 正彦 ①
昭43学子 佐藤 将彦	昭45学精 黒澤 郁雄 ②	昭48学精 福島 良信 ②	昭55院電 丸島 國義
昭43学子 鈴木 弘道 ④	昭46院機 岡本 和彦 ②	昭49学機 柳下 幸夫	昭57学機 水口 一郎
昭43学子 角田 勇	昭46学電 飯塚 英一	昭49学電 坂本 淳	昭58学機 有路 博
昭43学子 野崎 淳一 ⑦	昭46学電 狩野 守	昭49院子 松田 秀雄	昭60学電 太田 悦子 ②
昭43学化 池上 毅	昭46学子 大崎 孝明	昭50学機 松尾 泉	昭60学精 豊福 秀敏 ①
昭43学化 斉藤 昭	昭46学子 栗原 功幸	昭50学子 松田 実	昭62学機 神作 武志 ③
昭44学子 五十嵐 幸治	昭46学子 安田 健博	昭50学金 武藤 和望 ③	昭62学化 鈴木 葉子
昭44学子 石川 久	昭46学金 今富 久雄	昭50院精 加藤 清	昭62学情 福田 光子
昭44学子 野澤 敏矩 ②	昭46学金 大井川 勝雄	昭50学精 草谷 敏弘	昭63院情 二川 克美
昭44学子 吉田 真吾	昭47学機 高田 洋 ⑤	昭51学子 庄司 益宏 ③	平2院金 柴野 直樹 ④
昭44学化 斉藤 昭 ④	昭47学機 西岡 周二 ②	昭52学子 長尾 英則 ③	平5学機 千田 洋樹
昭44学化 宮川 滋	昭47学子 五十嵐 喜良 ⑦	昭52院金 渡辺 隆	平8学電・子 生井澤 伸秋 ⑨
昭44学精 菊地 政行	昭47学精 小泉 幸範	昭53学子 小澤 喜宏	平8院生 東 學 ①
昭45学電 永木 利夫 ⑦	昭48学機 金子 芳久 ⑤	昭53学子 加藤 邦治	平9学都 小林 靖典
昭45学電 吉田 通廣	昭48学機 宮城 緑郎	昭53学情 西部 俊憲	平10学機 山本 夏江
昭45学子 藤枝 伸一 ④	昭48学機 村上 宗久 ②	昭53学化 成田 芳徳	平19学社科 大江 正敏
昭45学精 伊藤 茂	昭48学電 佐藤 知康	昭54学精 田中 克弘 ①	

合計 215名

平成27年度ご寄付者名簿

(敬称略、順不同)

ご寄付有難うございました。

昭19専精 柳田 裕美	10,000	昭26専通 菊池 玲二	5,000
昭31学原 会田 隆雄(平成26年5月ご逝去され、ご内儀よりご納付を頂きました)			10,000
昭38学電 兼子 八郎	2,000	昭38学電 佐々木 登喜夫	30,000
昭50院精 相川 哲男(千葉支部所属ですが、当支部H27年「同窓の集い」に出席)			2,000
平8院生 東 學	1,000		

年会費納入のお願い：添付の払込取扱票でお早めにご入金下さい。
ご寄付の場合もこの用紙をお使い下さい。

皆様に納入して頂く年会費とご寄付が当支部の主な財源となっています。

この年会費納入者名簿にお名前がなければ、昨年度(平成27年度)の年会費は未納となっています。

会員の皆様の過去5年間分の会費納入状況データを、皆様宛会報送付封筒の宛名書き部分に、表示しました。

卒業年学科の後の(H23～H27)に続く、「1」と「0」だけからなる5桁の数字です。「1」は年会費納入を示し、「0」は年会費未納を示します。H23年からH27年までの納付状況が、5桁の数字の左側から右側に向けて順に表示されています。下記例示をご覧ください。 <宛名サンプル例示(C)に該当します>

- (A) 11111→5年間分完納。
- (B) 11110→4年間納付したが昨年度分は未納。
- (C) 11100→3年間納付したが一昨年から2年分未納。
- (D) 00000→この5年間未納。会報未送付年を含む。
- (E) 00111→H25から3年間納付。会報未送付年を含む。

101-1234 会報19号在中
東京都千代田区多賀町1-2-3
多賀本町住宅 3番街 5-2345
多賀専 学太郎様
昭XX学〇 (H23～H27) 11100

「東京支部会則」

(平成27年7月11日改訂)

第1章 総則

第1条 本会は、多賀工業会東京支部と称し、その支部事務所を支部長宅に置く。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて母校の隆昌に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員名簿の整備・管理
- (3) 会員相互の連絡及び共励共助
- (4) 会員と母校との連絡
- (5) 発展向上のための講演会、研修会
- (6) 同好会活動
- (7) その他目標達成のため必要と認める事項

第3章 会員

第4条 本会の会員は、多賀工業会の会員で東京・神奈川及び近隣に在任・在勤している者、並びに支部長が特別に承認した者とする。

第4章 役員

第5条 本会は次の役員を置く。

支部長	1名、副支部長	若干名
幹事長	1名、幹事	若干名
会計幹事	1名、会計監事	2名
会報編集室長	1名、ホームページ編集室長	1名
名簿編纂室長	1名、同好会会長又は部長	各1名
顧問	若干名	

第6条 役員は、次の方法によって定める。

支部長は、幹事会の互選とし総会での承認を得るものとする。支部長以外は、支部長が推薦し、幹事会の承認を得て支部長が委嘱するものとする。但し、同好会の会長又は部長は同好会会員の互選によるものとする。

第7条 役員の仕事は、次の通りである。

支部長	本会を代表し、会の運営・会務執行の責めに任ずる。
副支部長	支部長を補佐し、支部長が職務不能な時はその責務を代行する。
幹事長	幹事の業務を統括し、その運営にあたる。
幹事	会務に必要な事項を審議し決定する。
会計幹事	本会の収支、及び会計を担当する。
会計監事	会計を監査し総会で報告する。
会報編集室長・ホームページ編集室長・名簿編纂室長	各担当業務を執行する。
同好会幹事	同好会会長又は部長。その会を代表し自主的に会務を執行する。
顧問	支部長・幹事会の諮問に応ずる。

第8条 役員の仕事は2年とし、重任を妨げない。

第5章 会議

第9条 支部総会は、年1回開催する。但し、必要に応じ臨時支部総会を開くことができる。

第10条 支部総会は、次の事項について審議し、出席過半数の賛成で決議する。

- (1) 支部長人事
- (2) 会則の改廃
- (3) 本会の年度決算並びに次年度予算
- (4) 本会の年度事業報告並びに次年度計画

(5) 幹事会からの提出議案

(6) その他本会の目的を達成するために必要な事項

第11条 幹事会は、幹事をもって構成し原則として年4回(2、5、8、11月の原則として第4土曜日)に開催する。但し、必要に応じ支部長又は幹事長が臨時に召集し開催できる。

第12条 幹事会は、次の事項について審議し、出席者の3分の2以上の賛成で決議事項とする。

- (1) 支部長の互選及びその他役員の決定
- (2) 会則の改廃案
- (3) 本会の年度決算案並びに次年度予算案
- (4) 本会の年度事業報告案並びに次年度計画案
- (5) 総会への提出議案
- (6) 細則規定の改廃
- (7) その他会務運営上必要な事項

第6章 会計

第13条 本会の経費は、会員の年会費、寄付金及び本部補助金をもってあてる。

第14条 現金の保管は銀行預金の方法による。

第15条 本会の会計年度は、1月1日から12月31日までとする。

第16条 本会の収支は、会計幹事が担当し、会計監事が監査を行い総会に報告する。

付則 本会則は、平成16年10月23日より施行する。

細則規定

第1条 年会費は、2,000円とし、会計年度内に徴収する。複数年度分の先行納入は拒まない。

- (1) 但し、一旦納入の年会費は返還しない。
- (2) 会計幹事は年会費の銀行預金口座、郵便振込口座の管理をおこなう。

第2条 会報は次の者に配布する。

- (1) 年会費納入者(但し、5年連続未納者には以降配布を停止することが出来る。)
- (2) 支部総会参加者
- (3) 配布希望者で支部長が許可した者
- (4) その他多賀工業会本部及び支部等の関係者

第3条 総会開催の案内は、会報にて発表するとともに書面で通知する。書面による通知は、第2条の対象者以外にも広げて発送する。

第4条 慶弔規定は別途定める。

第5条 80歳到達の役員経験者に記念品を贈呈することが出来る。

第6条 幹事会に事務局を置き、幹事長が幹事会の取りまとめを行う。

第7条 幹事長には副幹事長、会報編集室長・ホームページ編集室長・名簿編纂室長には副室長をおき職務を補佐する。

第8条 各同好会には副会長又は副部長を置き、会長又は部長を補佐する。

第9条 本細則の改廃は、幹事会にて行う。

本細則は平成16年10月23日より施行する。平成23年8月27日に第1条(2)追加、第2条(1)修正、第6条を追加した。旧第6条は第7条とした。平成27年2月に細則の第2・6・7条を修正した。平成27年7月に細則の第8条を追加し、旧第8条は第9条とした。

HP 編集室より

HP 編集室長 黒澤 郁雄 (昭 45 学精)

昨年突然、上月前支部長から『おまえ HP の編集をやってくれないか!』と依頼され、『???』と茫然とした事が昨日のように思いおこされます。HP 作成には興味がありましたが『考えます』とお答えをし、後日『やらせて頂きます』と軽い気持ちで答えてしまいました。上月マジックだったかもしれません。

今まで HP 作成には興味があったのですが、HP 作成の機会がなかったので一からのスタートになりました。前任の矢野室長にお教をを請いながら少しずつ HP の記事を作成しました。原稿を作成して頂いた会員の方々と HP 用の記事を照らし合わせながら、何度か相談し可能な限り提出いただいた原稿に近づける作業が続きます。原稿を作成した会員から『OK』を頂いても矢野先輩から修正依頼があり、修正を深夜?まで HP 原稿を修正していたことを懐かしく思い出します。まだまだ HP 作成スキルが十分ではなく原稿を作成した会員の方々にご了

承を得て泣く泣く体裁を変更しご了解を頂く場面もありました。HP 作成にかかわり会員の方々とコミュニケーションも取れやと楽しく多賀工業会東京支部の活動の裏方として微力ながら貢献できたことは良かったと考えております。

HP の作業をして嬉しいのは会員の方々から日常の情報提供です。部活動の開催・活動報告は定例作業ですが、村松泰弘氏のアンサンブル・シエンのコンサート開催、大塚進氏の読売俳壇全国版での入賞、矢野睦男氏の日本マスターズ水泳大会での日本記録達成の記事は、作成しながらワクワクさせられました。多賀工業会東京支部の会員には凄い方が活躍していることを他の会員にお知らせ出来たことは幸せでした。現在の HP 編集室は小生一人ですが、矢野先輩にご相談しながらのよちよち歩きです。更なるステップアップを目指し頑張りますので、会員の方々のご指導、ご協力をお願い致します。

苦労があるから楽しみもある HP 編集をやってみたい方は多賀工業東京支部 HP のトップページから WEB メールにてご連絡をいただければ幸いです。

URL : <http://tokyo.tagakgk.com/>

編集後記

◆編集室長として、2 回目の会報編集に携わることになりました。

原稿執筆の割付けに関しては、皆さん気持ちよく引き受けて戴きましたし、また原稿の提出に関しても、ほとんどの方が締切日よりも前に提出して戴きました。おかげさまで、時間に追われることなく余裕をもって編集作業に打ち込むことができました。とは言っても、御本人や家族の都合により予定通り進まないケースも発生します。そのような時、急遽原稿執筆者を探す役割をお願いしたり、あるいは御本人に原稿執筆をお願いするケースが出てきます。今回も例外ではありませんでした。そのような時に、本気に対応して下さいる会員の皆様の善意に助けられて、今回も会報を発行することが可能となりました。感謝!

ここまで読むと皆さんは『順風満帆で、けっこう

ではないか!』と思われるかもしれません。私自身もサラリーマン時代に自分で報告書や提案書を、Word・Excel・Power Point を駆使して作成していましたので、簡単にできると考えていました。しかし、『すぐそばに気軽に手伝いを頼める人間が一人もない』という条件の違いをすっかり忘れていました。そんなわけで、『サクサクわかる Word・Excel』を買って傍らに置き、ウーンとうなりながら編集作業に取り組んでいるというのが現実の姿なのです。

編集室長を引き受けてまだ 2 年ですが、同じ人間がずっと続けるとマンネリ化して面白みのない会報になりそうな予感がしています。また、原稿執筆をお願いする時に、マニュアルがあれば簡単に会報用のフォーマットにアレンジできると考え、会報作成マニュアルのたたき台を作成しています。完成したら公開し、皆さんの意見を伺い完成度を高めたいと考えています。(金子芳久)

編集室員

兼子 八郎 (昭 38 学電)	小林 渡 (昭 38 学電)
藤枝 伸一 (昭 45 学子)	金子 芳久 (昭 48 学機)
柳下 幸夫 (昭 49 学機)	加藤 清 (昭 50 院精)
小澤 喜宏 (昭 53 学子)	鈴木 葉子 (昭 62 学化)
二川 克美 (昭 63 院情)	

多賀工業会東京支部会報 [第 19 号]

発行 平成 28 年 7 月 9 日

発行者 支部長 小林 一

〒226-0002 横浜市緑区東本郷 3-39-2

TEL 045-473-0928 / FAX 同左



新しい資産形成の考え方

インカム住宅を建てることで
自分たちの住む家にかかる支出を0(ゼロ)にする。

戸建賃貸住宅 casita

詳しくはwebで。

資料請求、お問い合わせは
こちらまでお気軽に！

0120-355-347

建設業許可番号 / 茨城県知事登録 (特-22) 第 19313 号

日上市多賀町 2-4-6 株式会社 ジュンホーム

茨城大学工学部
昭41学化
後援会長



(株) ジュン・ホーム
代表取締役
小沼 淳志

私たち大協印刷は、
印刷に関わるあらゆるサービスをご提案しております。
ぜひ一度ご相談ください。

- | | |
|----------|---|
| PR 関連商品 | <input type="checkbox"/> 会社案内 <input type="checkbox"/> 広報誌 <input type="checkbox"/> 社内報 <input type="checkbox"/> ポスター <input type="checkbox"/> カタログ
<input type="checkbox"/> パンフレット <input type="checkbox"/> マニュアル <input type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> 記念誌
<input type="checkbox"/> パネル <input type="checkbox"/> ダイレクトメール |
| IR 関連商品 | <input type="checkbox"/> 事業報告書 |
| 学術関連商品 | <input type="checkbox"/> 紀要 <input type="checkbox"/> 学会誌 |
| 事務用品関連商品 | <input type="checkbox"/> 名刺 <input type="checkbox"/> 封筒各種 <input type="checkbox"/> 伝票各種 <input type="checkbox"/> レターヘッド
<input type="checkbox"/> 連続帳票 |
| その他 | <input type="checkbox"/> 一般書籍 <input type="checkbox"/> 自費出版 (句集、詩集、写真集) <input type="checkbox"/> 名簿
<input type="checkbox"/> 各種ノベルティ <input type="checkbox"/> その他 |



大協印刷株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東2-4-14
TEL:03-3837-5291/FAX:03-3837-5293
E-mail:info@daikyo-print.co.jp

